

【事業報告】

**一般社団法人 日本インダストリアルイメージング協会**  
**第 17 期 (2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで) 事業報告の件**

**第 17 期の事業概況**

2024 年 6 月 13 日に東京都港区芝公園 3 丁目 5-8 機械振興会館 6 D-4 会議室に於いて、定時社員総会を開催し、一般社団法人としての第 16 期の事業報告他、以下の決議事項が全会一致で可決されました。

報告事項	第 16 期の事業報告
第 1 号議案	第 16 期決算報告書承認の件
第 2 号議案	定款変更の件
第 3 号議案	第 17 期事業計画案及び予算案承認の件

この決議に基づき以下の活動を行いました。

**1. 2024 年度の活動総括**

ウクライナ、パレスチナでの戦争、それに端を発したブロック経済化の流れの固定化リスク。国内に目を転じると能登半島沖地震に追い打ちをかける豪雨災害、大船渡山林火災に端を発した各地での山林火災、トランプ・ショック、マシンビジョンマーケットにおいても直接的なリスク対応はもとより、半導体関連事業デマンドのポリティの大きさを主因とする見通しの不透明さなどまさにリスクを意識させられる年となり現在もその厳しい状況は変わりなく難しい運営を強いられております。またマシンビジョンのみならず将来の持続的発展を見据えた次世代を担う人材の確保と育成が大きな課題であるという認識が大きく取り上げられた年でもありました。JIIA 活動におきましても、理事会、委員会、分科会における十分な活動を支えていくサポートの重要性を意識する必要性を再認識いたしました。

そうした環境の元、会員への情報発信の取り組みと会員相互の情報交換の活性化、国際規格推進活動を行い、きめ細やかな活動を展開することができた一方課題も明確となった一年となりました。

事業活動をサポートする事務局、事務局担当理事の拡充を伴った事務局機能の強化と、会員、協力団体、一般への情報発信と会員相互の交流を推進するアソシエート・ディベロップメント担当の相互協力により丁寧な情報発信を行いました。活動の活性化を呼び起こし、様々なイベント後の交流活動を通じ活動へのフィードバックも活発化し活動の取捨選択していく参考となる有益な場となっています。

JIIA 活動の核心たる標準化は標準化委員会、国際規格推進委員会が担当し多くの課題に対応してきております。

標準化としては4月に東京/富士山でのIVSM（International Vision Standards Meeting）を主催、10月のスイスでのIVSMには3名を派遣し、GigEVisionのRDMA技術。小型光コネクタの開発。LensConnectの推進など新たなテーマが示されています。技術者交流を目的として、分科会集中審議JVSMを東京、大阪で開催しました。また10月のシュツツガルト/ドイツで開催されたG3会議には3名を派遣しています。

国際規格推進委員会は数度のITU-T会合に日本団の一員として参加し、特に4月フランス/レンヌ、8月ジュネーブでのSG16本会合にはTTCからの委託事業として参加しております。1月にはJIIAが強く求めていたマシンビジョン関連寄書を集中審議する組織改編が実現し、新たにSG21として本会合が開催され、ジュネーブに2名を派遣し公平公正な標準化を実現する一翼を担いました。

標準化普及活動としては、国内では6月画像センシング展、12月国際画像機器展の後援を継続し、International Machine Vision Standards Boothでの標準化技術の動展示、また他団体連携に関するパネル展示とロボットビジョン動展示、及び各種JIIAセミナーの開催を実施致しました。初めての試みとして日本ロボットシステムインテグレーター協会展示会に参加しJIIA活動を紹介いたしました。

一方海外では5月にアメリカ・シカゴで開催されたAutomate展に1名を派遣、7月Vision China 上海に2名、10月のVision Show/Stuttgartに3名派遣し、International Machine Vision Standards Boothでの規格展示と、Industrial Vision Daysでの講演、3月にはVision China 上海にてインターフェースの発展とCoaXPress認証試験の重要性に関する講演を実施して参りました。

海外標準化協会との協業としては例年通りG3会合で意見交換を行い対面開催となったStuttgartおよび上海にはそれぞれ3名を派遣今後の協業活動について課題感を共有しました。

また、JIIA主催の国内技術セミナー「名雲塾」もハイブリットで開催。名雲塾を引き継いで、アソシエート・ディベロップメントが主管する、技術セミナーを2回、ビジネスマッチングセミナーを1回開催し、会員各位のご参加を頂く事ができ盛況裡に終了しております。

また他団体との連携活動として、RRI主催展示会でのJIIA活動の紹介、日本ロボットシステムインテグレーター協会主催展示会への参加など交流を通じての知見の共有などが実現しております。

活動の成果と今後の課題については、アソシエート・ディベロップメント、標準化委員会、国際規格推進委員会の順でそれぞれ詳しくご報告します。

## **2. 2024年度アソシエート・ディベロップメント報告**

JIIA設立のひとつの目的であり、活動の基本である日本のMachine Vision業界に貢献し、Machine Vision業界に関わる企業、団体との交流を盛んにすることから、2024年度もJIIA会員に向けたイベント開催や他団体との交流、親交を深めてきました。

特にVisionのニーズが高まっているロボットシステムに対し、ロボット革命・産業IoTイニシアチブ協議会（RRI）との連携活動を進め、RRI会員とJIIA会員の双方のロボットシステムに関するテーマをもとに1年間にわたり、RRI/WG2の主要メンバーとJIIA理事が定期的にミーティングを行いました。今後の「ロボットとビジョン」において何が必要とされるのかを議論してまいりました。

また、RRIとの活動の中で日本ロボットシステムインテグレート協会（JARSIA）とも、ロボットを制御するSierとしてビジョンの技術、知識を JARSIA 会員に知って頂き、活用して頂きたいと思い、連携活動を始めました。

2024 年度はビジョンにとって、古くて新しいマーケットとして、ロボットシステムに改めて取り組み始めた年でありました。

2024 年度の活動の反省としては、JIIA 会員向けの技術セミナー、イベントをあまり開催することができなかったことでした。準備も含めて今後の課題となります。

2024 年度の主な活動のイベントは下記の通りです。

**5月：ロボット革命・産業 IoT イニシアチブ協議会（RRI）と打ち合わせ開始（5/9）**

機械振興会館（WebEX+対面で開催）

2023 年度からの事前打ち合わせを受けて、RRI/WG2 のメンバーと JIIA 理事メンバーで今後の協業活動について、定期的に打ち合わせを行うことを決めた（2 ヶ月ごと）

**7月：「名雲塾」最終講演開催（7/10）**

機械振興会館（WebEX+対面で開催）

「ISO 標準化決定＝カメラ規格 EMVA1288 その異世界規格をわかり易く解説」

「デジタルイメージング デジタル画素とスマホ技術、その後の進化を語る」

講師 JIIA 相談役 名雲文男氏

**10月：日本ロボットシステムインテグレート協会（JARSIA）にて講演（10/31）**

相模原産業創造センター（WebEX+対面で開催）

JARSIA 技術分科会、マーケティング分科会において、画像技術のセミナーと JIIA のご紹介

講師 JIIA 副代表理事/株式会社マイクロ・テクニカ 岩田節子

**12月：国際画像機器展（12/4～12/6）**

パシフィコ横浜 D ホール

・RRI と JIIA のパネルディスカッション（12/5）

「今、ロボットシステムに何が起きているかー ロボットとビジョンが新たに創造する世界を問う！！」

RRI と JIIA のパネルディスカッション ー」

モデレーター 岩田節子（JIIA）、ファシリテーター 芹沢 哲氏（RRI）

パネリスト：ロボット革命・産業 IoT イニシアチブ協議会（RRI）

株式会社豊電子工業 成瀬雅輝氏、川崎重工業株式会社 真田和典氏

パネリスト：日本インダストリアルイメージング協会（JIIA）

兵神装備株式会社 中澤正樹氏

東京マシンヴィジョンシステム株式会社 小川直樹氏

・ロボット動展示

次世代ビジョンネットワーク準備部会と MECHATROLINK 協会（MMA）との連携活動の紹介と

して、スマートカメラと小型ロボットを MECHATROLINK-Ⅲと LAN で繋いでピッキングのデモを行った。

## **2月：ロボット FA 関連商品説明会@東京に出展（2/20～2/21）**

大田区産業プラザ（Pio）

日本ロボットシステムインテグレータ協会（JARSIA）主催の展示会に出展

- ・ 技術分科会にてパネルディスカッション。（2/20）

「今、ロボットシステムに何が起きているか」

モデレーター JIIA 副代表理事/株式会社マイクロ・テクニカ 岩田節子

パネリスト：日本ロボットシステムインテグレータ協会（JARSIA）

株式会社豊電子工業 成瀬雅輝氏、三菱電機システムサービス株式会社 田村靖樹氏、

三明機工株式会社 近藤篤司氏

パネリスト：日本インダストリアルイメージング協会

東京マシンビジョンシステム株式会社/小川直樹氏、兵神装備株式会社/中澤正樹氏、

株式会社レイマック/杉原大祐氏、（司会）株式会社 マイクロ・テクニカ/岩田節子

- ・ ロボット動展示

小型ロボットとスマートカメラによるピッキングデモ

## **3. 2024 年度標準化委員会活動報告**

標準化委員会に技術仕様ごとの分科会（Working Group）を設置し、標準化作業を行っています。  
昨年度は下記の展示会／セミナー／規格化を各分科会において行いました。

### **■ 展示会、セミナー等における普及活動**

#### **4月：IVSM 春（山梨/東京 JIIA 主催）（4/15～19）**

標準化委員会として、JIIA 主管分科会の活動状況、規格アップデートを紹介

- ・ CoaXPress の PlugFest を主催

#### **5月：Automate（米国：シカゴ）（5/6～9）**

International Machine Vision Standards Booth での規格展示を実施

- ・ 動展示： CoaXPress MIPI Bridge
- ・ 静展示： SLVS-EC など JIIA 標準アップデート
- ・ G3 セミナーとして JIIA 規格アップデートを紹介した

#### **6月：画像センシング展（パシフィコ横浜）（6/12～14）**

International Machine Vision Standards Booth での規格展示および JIIA セミナーを実施

- ・ 規格展示：  
動展示： CoaXPress、SLVS-EC

静展示： 光伝送メディア製品、IIDC2、レンズ、次世代 Vision ネットワークの各規格・ガイドライン展示  
パネル展示： 各規格ソリューション紹介パネル、他団体連携活動パネル  
配布： 各種分科会フライヤ、JIIA 活動紹介フライヤ、光学用語集（レンズ分科会）  
スライド上映： JIIA 活動紹介（読み上げ音声付）

- ・ JIIA セミナー：  
「業界標準から国際標準へ、新たなるステージへ  
～マシンビジョン関連規格の ITU-T、及び ISO における JIIA の取り組み～」

#### **7 月：Vision China 上海（中国：上海）（7/8～10）**

CMVU ブースで JIIA 活動と CoaXPress 認証の必要性を紹介

- ・ 配布： JIIA 紹介、CoaXPress 認証

#### **9 月：JVSM 秋（JIIA's Vision Standards Meeting, 機械振興会館）（9/19～20）**

標準化委員会の分科会を対面とオンラインのハイブリッドにより二日間で集中的に開催

- ・ 9 つの分科会、2 つの合同分科会、特別セミナーを開催
- ・ EMVA1288 オンラインデモを実施

#### **10 月：Vision2024 展（ドイツ：シュトゥットガルト）（10/8-10）**

International Machine Vision Standards Booth で規格展示

- ・ 動展示： CoaXPress、Embedded Vision
- ・ 静展示： CoaXPress、SLVS-EC 各種 POP
- ・ パネル展示： 照明分科会、レンズ分科会
- ・ G3 ミーティング
- ・ JIIA 主管の規格アップデートを報告

#### **10 月：IVSM 秋（Frauenfeld/Switzerland VDMA 主催）（10/14～18）**

標準化委員会として、JIIA 主管分科会の活動状況、規格アップデートを紹介

- ・ CoaXPress の PlugFest を主催

#### **12 月：国際画像機器展（パシフィコ横浜）（12/4～6）**

International Machine Vision Standards Booth での規格展示および JIIA セミナーを実施

- ・ 規格展示：  
動展示： CoaXPress、SLVS-EC、GenICam 対応照明、ロボット×ビジョン動展示（次世代 Vision ネットワークの関連展示として実施）  
静展示： 光伝送メディア製品、IIDC2、レンズ、次世代 Vision ネットワークの各規格・ガイドライン展示  
パネル展示： 各規格ソリューション紹介パネル、他団体連携活動パネル  
配布： 各種分科会フライヤ、JIIA 活動紹介フライヤ、光学用語集（レンズ分科会）  
スライド上映：  
JIIA 活動紹介（読み上げ音声付）
- ・ JIIA セミナー：

①「マシンビジョン最新動向および JIIA 活動の紹介

～ 海外展示会・マシンビジョン関連国際会議からの報告、JIIA 規格書・ガイドライン等のアップデート～」

②「今、ロボットシステムに何が起きているか

～ ロボットとビジョンが新たに創造する世界を問う！！ RRI と JIIA のパネルディスカッション ～」

③「ITU-T におけるマルチメディア関連標準化動向

～ 新研究期間におけるマルチメディア関連標準化動向の紹介 ～」

**2 月 : JVSM 春 (JIIA's Vision Standards Meeting, 新大阪セミナーオフィスルーム) (2025/2/13～14)**

標準化委員会の分科会を対面とオンラインのハイブリッドにより二日間で集中的に開催

- ・ Camera Link HS 分科会主査 Martin Schwarzbauer 氏による Camera Link HS 特別セミナーを実施

**2 月 : ロボット FA 関連商品説明会 (大田区産業プラザ PiO) (2025/2/20～21)**

日本ロボットシステムインテグレータ協会 (Sier 協会) 様主催のロボット FA 関連商品説明会に JIIA として初出展し、ロボット×ビジョン動展示を次世代 Vision ネットワークの関連展示として実施

- ・ Sier 協会技術委員会でのパネルディスカッション企画に参加  
「今、ロボットシステムに何が起きているか」

**3 月 : Vision China 上海 (中国 : 上海) (2025/3/26～28)**

International Machine Vision Standards Booth で JIIA 活動と CoaXPress 認証の必要性の紹介、および Vision China Forum 枠でのセミナーを実施

- ・ パネル展示 : CoaXPress 認証、SLVS-EC 紹介
- ・ 配布 : JIIA 紹介、CoaXPress、CoaXPress 認証、SLVS-EC
- ・ Vision China Forum

Vision China で初めてセミナー枠を確保し、CoaXPress 認証の必要性等に関するセミナーを実施  
「日本資本投資趨勢 不断发展的机器视觉接口 CoaXPress 2.1 认证及其必要性」

■ **G3 規格化会議**

**4 月 : IVSM 春 (山梨/東京 JIIA 主催) (4/15～219)**

**10 月 : IVSM 秋 (Frauenfeld/Switzerland VDMA 主催) (10/14～18)**

■ **デジュール国際標準化会議**

**6 月 : ISO ニューヨーク会議 (Online) (6/10～14)**

**10 月 : ISO シドニー会議 (Online) (10/14～18)**

**2025 年 2 月 : ISO 東京会議 (対面) (2025/2/25～28)**

- ・ EMVA1288 の ISO 化への取り組み

■ **マシンビジョン普及活動**

画像センシング展、国際画像機器展のセミナーだけでなく、JVSM（JIIA's Vision Standards Meeting）セミナーを一般公開とするなど、マシンビジョンの普及活動に取り組みました。

また、Vision China 上海では、CoaXPress 認証の必要性についての一般公開セミナーを実施しました。

一方で、JIIA の中心的活動の場である分科会での標準化が一巡している認識のもと、特に Embedded Vision I/F 分科会では実証実験機材を作成しての普及活動を計画しましたが、未達となりました。

今後は、標準化委員会全体として、いかに活動の軸を標準化作業からさらなる普及活動に移行していくかを課題として取り組んでいきます。

## ■ 分科会活動

### (1) CoaXPress 分科会

- ・ 同軸ケーブルでの更なる高速化と CoaXPress Over fiber Bridge Protocol Guideline を取り入れた Version 3.0 の検討を推進中です。  
相互接続試験での Validation Frame Work の試験運用を東京とシュトゥットガルトで実施しました。
- ・ IVSM 国際会議を 2 回主催、コロナ後初の対面会議を実施し、Web 会議システムも活用したハイブリッド分科会に加え、Web ベースの共同作業ツール Trac を用い、標準化活動を行いました。
- ・ 規格認証試験（ECT）を計 5 回主催し 99 製品の測定を実施、Plugfest を 4 回主催し 38 製品の試験を行いました。掲載製品群は延べ 200 を超えました。
- ・ 国内外の展示会において動展示を行いました。

### (2) USB3 Vision 分科会

- ・ A3 USB3 Vision Technical Committee のフォローアップを定期的に実施しています。2025 年 3 月には、U3V Technical Committee 参加各社による、Validation PC スペックに関する Voting が実施されました。A3 および USBIF ともに規格としての安定期にあり、本議案の投票以外の大きな活動はありませんでした。

### (3) Camera Link 分科会

- ・ JIIA 内での議論はなく、情報提供のみで分科会活動は休止しています。

### (4) GigE Vision 分科会

- ・ JIIA 内での議論はなく、情報提供のみで分科会活動は休止しています。

### (5) 光伝送メディア分科会

- ・ 休会しておりましたが、年度末に主査、副主査を選任しました。

### (6) Embedded Vision I/F 分科会

- ・ SLVS-EC V3.1 規格（～12.5Gbps/Lane）をリリースしました。
- ・ 国内では画像センシング展、及び、国際画像機器展、海外では Automate, Vision Stuttgart において、SLVS-EC の動展示や長距離伝送に向けたコネクタケーブルの静展示等を行いました。
- ・ EMVA 主導の Embedded Machine Vision I/F 規格策定のための WG（emVision）は活動を休止中です。

(7) コネクタ&ケーブル認証制度分科会

- ・ 2024 年 7-9 月にかけてガイドライン ドラフト版をもとにロボットメーカー、実装機メーカー等のエンドユーザー 9 社に対しヒアリングを行い本ガイドラインの有効性及び追加要望事項を確認しました。その結果をもとにガイドラインの修正、追加を行いガイドライン作成の最終版のまとめを分科会メンバーで行いました。

(8) IIDC2 分科会

- ・ Version1.3.0 の策定を開始しました。
- ・ レンズ分科会にて発足したレンズ機能遠隔操作技術の標準化を目指す「LensConnect 作業部会」に参画し、レンズ制御を行う OpticControl の策定を本作業部会で行う体制としました。

(9) GenICam 分科会

- ・ JJIA 内での議論はなく、情報提供のみで分科会活動は休止しています。

(10) カメラ仕様分科会

- ・ EMVA1288 の ISO 化に向けて JJIA における取り組み体制を整え、ISO の国内協議会、国際会議に参加し国際標準化を支援しました。
- ・ JVSM 秋で開催した分科会では、EMVA における EMVA1288 分科会の主査である Bernd Jähne 氏を講師に迎え、EMVA1288 の解説と、EMVA1288 準拠の Camera Calibrator のオンラインデモを開催しました。

(11) 照明分科会

- ・ 画像センシングでは実施ができていなかった動展示を 12 月の国際画像機器展で復活し、GenICam に適合する照明機器のメリットの訴求に努めました。
- ・ 規格書の定期見直しに伴い改定作業を進めました。既存の規格書およびガイドラインの認知度をグローバルに展開し、マシンビジョン市場でより一層活用されることを目指し、規格書の見直しなどを検討しました。
- ・ ここ数年取り組んでいた GenICam に適合する照明機器の普及活動については市場で流通することへの課題を認識したうえで本テーマの進め方を検討し、ペンディングとすることとしました。

(12) レンズ分科会

- ・ レンズ分科会制定規格の定期見直し作業として「LE-003 : NF マウント規格 及び 運用規定」の改訂を行いました。
- ・ レンズ機能遠隔制御技術の標準化を目的とした「LensConnect 作業部会」が発足しました。

(13) 高忠実色再現分科会

- ・ ITU 勧告への取り組みに関連して休止していた分科会を開催し、今後の活動の方針について、分科会の廃止・継続も含め協議しました。
- ・ 協議の結果、分科会を存続することとしましたが主査が不在となり、標準化委員会で維持管理することとなりました。



#### (14) 次世代 Vision ネットワーク準備部会

- ・ 6 月に開催されたメカトロリンク協会様の総会参加を通じて得られたオリエンタルモータ様と繋がりから、12 月の国際画像機器展ではメインの取り組みとしてロボット x ビジョンの動展示を実現できました。
- ・ 2025 年 2 月には、日本ロボットシステムインテグレータ協会様が主催されるロボット FA 関連商品説明会に初参加し、前述の動展示品を出展しました。この説明会を通じて開催地蒲田の地元企業様やロボット業界の技術系の方々とマシンビジョンとロボットの現状やこれからについて意見交換ができました。

## **4. 2024 年度国際規格推進委員会活動報告**

2024 年度の国際規格推進委員会（Global Standardization Advancement Committee、GSAC）の活動は、2023 年度に引き続き国際電気通信連合電気通信標準化部門（International Telecommunication Union Telecommunication Standardization Sector、ITU-T）の Associates 会員、及び一般社団法人情報通信技術委員会（The Telecommunication Technology Committee、TTC）の会員として ITU-T における標準化活動を中心に次の活動を実施しました。

### **■ ITU-T、及び TTC への参画**

2023 年度同様、ITU-T の Associates 会員、及び TTC のマルチメディア応用専門委員会 マシンビジョン Sub Working Group（TTC マシンビジョン-SWG）のメンバーとして、主に ITU-T での「寄書」、及び「勧告案」（国際標準の草案）の対応に注力しました。ITU-T で発行される国際標準（「勧告」と呼ぶ）の寄書・勧告案について、マシンビジョンに関連するものを調査分析し、改善の必要がある場合は会合でのコメント、或は JIIA 自ら改善案を記した寄書の作成によって、寄書・勧告案の適正化改善を実施しました。

なお、ITU-T では、2024 年 10 月、インド ニューデリーで開催された 2024 世界電気通信標準化総会（World Telecommunication Standardization Assembly-2024、WTSA-2024）において研究委員会（Study Group、SG）の再編がありました。2022 年 1 月から 2024 年 12 月までの研究期間（Study Period 2022-2024）において JIIA が Associates 会員として参加していた第 16 研究委員会（SG16）は、第 9 研究委員会（SG9）と統合され、2025 年 1 月から 2028 年 12 月までの新しい研究期間（Study Period 2025-2028）においては、第 21 研究委員会（SG21）へ引き継がれることとなりました。

今回、2 回の本会合、1 回の Working Party（WP「いくつかの Q をまとめた中規模の委員会」）会合、2 回の専門家会合（Rapporteur Group Meeting、RGM）に JIIA は参加しました。

#### **4 月：第 3 回 ITU-T SG16 本会合 <4/15-4/26>**

フランス レンヌ（現地+Web 開催）→ JIIA から現地 2 名、Web 5 名参加

#### **8 月：課題 12（Question 12、Q12）の RGM<8/27-8/29>、及び Joint WP 会合<8/30>**

スイス ジュネーブ（現地+Web 開催）→ JIIA から現地 2 名、Web 5 名参加

#### **12 月：課題 5（Question 5、Q5）の専門家会合（Rapporteur Meeting） <12/10>**

Web 開催 → JIIA から Web 4 名参加

**1月：第1回 ITU-T SG21 本会合 <1/13-1/24>**

スイス ジュネーブ（現地+Web 開催）→ JIIA から現地 2 名、Web 3 名参加

また、今回、次の8回のTTCの会合にJIIAは参加しました。

**4月：第30回 TTC マシンビジョン-SWG <4/11>**

**6月：第31回 TTC マシンビジョン-SWG <6/19>**

**8月：第32回 TTC マシンビジョン-SWG <8/19>**

**9月：第33回 TTC マシンビジョン-SWG <9/20>**

**11月：第34回 TTC マシンビジョン-SWG <11/1>**

**12月：第35回 TTC マシンビジョン-SWG <12/2>**

第15回 TTC マルチメディア応用専門委員会 <12/5>

**1月：第36回 TTC マシンビジョン-SWG <1/10>**

**広報・普及活動**

昨年6月の画像センシング展では活動状況について JIIA の標準化委員会とのコラボによるセミナー、また12月の国際画像機器展では ITU-T の最新の活動状況について外部講師によるセミナーを実施、更に JIIA メルマガにてそれぞれのセミナーの案内を発信しました。

**6月：画像センシング展セミナー <6/13>**

「業界標準から国際標準へ、新たなステージへ ～ マシンビジョン関連規格のITU-T、及びISOにおけるJIIAの取り組み～」

**12月：画像機器展セミナー <12/6>**

「ITU-Tにおけるマルチメディア関連標準化動向 ～ 新研究期間におけるマルチメディア関連標準化動向の紹介～」

講演：国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）イノベーション推進部門 標準化推進室  
参事 今中秀郎様

■ その他

2023 年 12 月、アラブ首長国連邦 ドバイにて各国のトップクラスの通信関連企業の CEO クラスのハイレベルな幹部を招待、通信に関わる最新の技術動向を発表する CxO Roundtable という会議が開催され、JIIA が参加、マシンビジョン・テクノロジーの中期展望によるグローバルな標準化活動を推進することを発表しました。また、JIIA が参加している SG メンバーにマシンビジョン規格を紹介するワークショップの開催を予定していました。しかしながら、リソース不足により、いずれも具体的な活動に結びついていませんでした。ITU-T のアドバイスによると、標準化活動の輪を ITU-T 内に拡大するためには、まず G3 マシンビジョン規格体系のインプットから始めることが良いとの話があったことから、これを具体的な活動の一步として進めていきます。

また、現在マシンビジョン関連の寄書、勧告草案は、WTSA-24 で ITU-T SG21 の Q7 での取扱となったため、Q7 に集まってきていますが、他の Q や SG で散見されるケースもあり、引続き ITU-T SG21 Q7 以外の寄書の調査、及び Q7 での取扱推進の活動を進めていきます。

更に、LiDAR (Light Detection and Ranging「光検出と距離測定」) 技術を用いたアプリケーションの標準化を推進するため、今回新たに芝浦工業大学が GSAC メンバーとして参加しました。1 月の SG21 本会合では Q7 に提出された「ビジョンベースのマルチロボットコラボレーションシステムの要件とフレームワーク」に関する寄書の修正を提案いたしました。こちらも引続き標準化を進めていきます。

以上の通り、2024 年度の活動実績を報告します。